

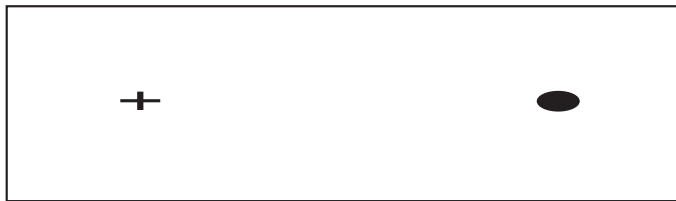
組織を活性化する実習 「第8回」

株式会社パートナーズリンク代表 藤崎敏郎

「盲点」を知る実習

人は、知っているつもりでも、知らないことがたくさんあるものです。自分のことさえ知らないことがあります。人には「盲点」があることを知ると、素直に学ぶことの大切さを感じることができるようになります。

図を拡大コピーしてお使いください。まず左目を閉じ、目だけで見ます。右目で+のマークを見ながら、隣の黒丸の存在を確認します。直接に黒丸を見てはいけません。視点を置くのは「+」のマークのほうだけですが、視野の片隅に黒丸の存在を確認するのは、そのままゆっくりこの紙を目に近づけます。近づけながらずっと「+」のマークを見つめておきます。すると、ある一定の距離でこの黒丸が消えるポイントがあります。視覚の盲点に入るためです。そしてその



ままさらに近づけていくと、またこの黒丸は現れます。実習をしていると、見えたり消えたりする不思議さに体験者から歓声が上がることもあります。

目から入ってくる情報を受ける部分を網膜といいます。網膜には神経線維が束になって集まっている部分があります。その多くの神経が固まっている部分は「盲点」といって、ここに情報が入っても全く見えな

いのです。ただし、両目の盲点はそれぞれ別の角度にあり、お互いが盲点をカバーしあっているため普段は気づきません。片目だけで見ても、脳は仕入れた情報を利用してうまく補充してしまうので盲点の存在に気づきにくいのです。

この実習で、自分の知らないことがたくさんあると分かる謙虚な気持ちになれるでしょう。心のコップが上を向いていない人(受容しようという姿勢がない人)を、上向きにすることができるともいえます。仕事もプライベートも、他の人が言うことを、まずは色眼鏡なしで真摯に受け入れる素直さがあれば、たいいていこのことはうまく行くものです。



ふじさき・としろう

(株)パートナーズリンク代表取締役社長。大阪市立大学経済学部卒業後、大手流通チェーン企業に入社。準大手パチンコホール企業で総括SV、営業企画室長、経営計画部長を経て独立。人事コンサルタントとして社員教育・リスク回避型就業規則作成・クレド作成コンサルティング、評価制度の構築などを行っている。